

9月のでがたんにご参加いただきありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回10月のでがたんは10月8日(土)で、テーマは「秋の生き物たち」です。

* 市民スタッフの方へ 次回のでがたん下見は、10月2日(日)の9:30からです。

9月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→市民農園→藤棚
- 観察日時と天気：2016年9月10日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 市民スタッフ：7人 (木村稔、蒲田知子、大嶽若緒、小泉伸夫、寒江洋次、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員： 2人 (小田谷嘉弥・美濃亜理彩)

観察した生き物の記録

【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：カルガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ/チドリ科：コチドリ/タカ科：トビ、小型のハイタカ属の1種、サシバ、ノスリ/カワセミ科：カワセミ/ハヤブサ科：チョウゲンボウ/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/メジロ科：メジロ(声のみ)/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【両生類・爬虫類】

ニホンアマガエル、ウシガエル、ニホンカナヘビ、ヒガシニホントカゲ

【昆虫】

トンボ目：シオカラトンボ、コシアキトンボ、コフキトンボ、ノシメトンボ、ウスバキトンボ、アジイトトンボ/チョウ目：モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、アカボシゴマダラ、コムラサキ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ベニシジミ、ウラギンシジミ/コウチュウ目：ウリハムシ、クロウリハムシ、ドウガネブイブイ、マメコガネ/カメムシ目：ツクツクボウシ、アブラゼミ、ミンミンゼミ/直翅目：エンマコオロギ、ツツレサセコオロギ、ハラオカメコオロギ、モリオカメコオロギ、ミツカドコオロギ、マダラスズ、シバズ、カネタタキ、クサヒバリ、カンタン、アオマツムシ、ウスイロササキリ、クビキリギス、オンバッター、ショウリョウバッタ、ヒシバッタ、ヒナバッタ、イボバッタ、トノサマバッタ、クルマバッタモドキ、コバネイナゴ

【クモ】

ナガコガネグモ、ジョロウグモ

【草の花・木の花】

草の花：クマツヅラ科：クマツヅラ/キク科：ヒメムカシヨモギ、アキノノゲシ、ノゲシ、セイヨウタンポポ、ハキダメギク、コセンダングサ、アメリカカタカサブロウ/ツユクサ科：ツユクサ/カタバミ科：カタバミ、オッチカカタバミ、アカカタバミ/マメ科：シロツメクサ、ムラサキツメクサ、ツルマメ/イネ科：スズメノヒエ、シマスズメノヒエ、カゼクサ、エノコログサ、キンエノコロ、チカラシバ/カヤツリグサ科：ヤマイ、カヤツリグサ、アゼガヤツリ/ガマ科：ガマ/トウダイグサ科：コニシキソウ/ブドウ科：ヤブガラシ/スベリヒユ科：スベリヒユ/アカバナ科：アカバナユウゲショウ、ヒレタゴボウ/タデ科：オオイヌタデ、イヌタデ/アサ科：カナムグラ/アカネ科：ヘクソカズラ/フウロソウ科：ゲンノショウコ/ヒユ科：ヒナタイノコヅチ/ 木の花：ヤマハギ(マメ科)、サルスベリ(ミソハギ科)

観察した生き物の記録



今回のてがたんのテーマは「帰る鳥・来る鳥」でした。秋らしい晴空の下、手賀沼沿いを歩いて渡る鳥を探しました。この時期ならではのモズの行動を観察できたほか、運よくサシバの渡りを見ることができました。



今月の案内人 木村稔さん、蒲田知子さん



① 交尾していたヤマトシジミのペア



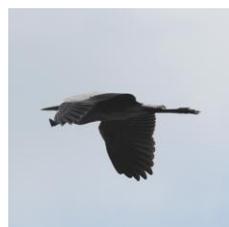
② アマガエルを触ったら良く手を洗いましょう



③ 沼沿いのヤナギにいたシジュウカラの幼鳥



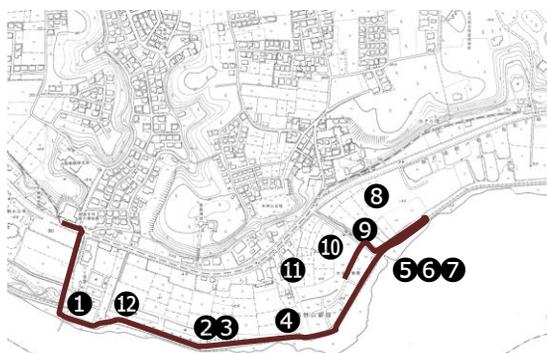
⑤ 杭で休んでいたカワウ



⑥ 沼の上を飛んで行ったアオサギ



④ カキの木に止まって高鳴きをしていたモズの雌。親水広場から市民農園までの間に、少なくとも3羽見つけられました。



歩いたルートと観察した生き物



⑧ 市民農園上空で上昇気流をつかみ、南へ渡っていたサシバの幼鳥。沖縄県やフィリピンまで渡りをします。



⑦ 人工島の干潟で餌を食べていたコチドリ



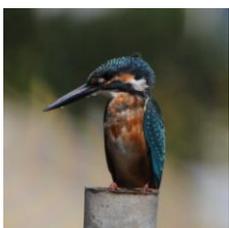
⑨ 草地で捕まえたヒナバッタ



⑩ 雌親と一緒に砂浴びしていたキジのヒナ



⑪ サシバと似たルートで渡ったノスリの幼鳥



⑫ 帰り道、釣り堀で見られたカワセミ

今月の鳥 モズ スズメ目モズ科

モズは秋になると手賀沼周辺で見られるようになりますが、それまではどこに行っているのでしょうか？モズは、秋に平地に渡来して雄雌別に縄張りを作ります。春になると、雌が雄の縄張りに入ってくる形でつがいになり、1回目の繁殖を行います。それが終わると、標高の高い場所や北日本に移動し、2回目の繁殖を行うと考えられています。2回目の繁殖が終わると、羽毛を生え変えてから、また冬を過ごす場所に戻ってくるのです。この興味深い渡りの他にも、餌を貯食する「はやにえ」を作ったり、他の鳥の鳴真似を頻繁にするなど、とても見どころの多い鳥です。この秋は、高鳴きをしているモズたちをぜひ観察してみてください。



鋭い嘴をもつモズの雄